輝く“ふくろい”まち・ひと・しごと創生会議

地方創生 やらまいか通信 vol. 155

輝く未来へ今、袋井が動き出す！～挑戦するDNAを呼び起こせ～

発行日：平成30年10月19日
発　行：袋井市総合戦略室

若者×地域学

今年のテーマは「観光誘客」

大学連携モデル

静岡理工科大学との包括連携協定に基づき、恒例となった「地域学講座」を開催。
講座には、大学１～２年生28人が６グループに分かれて参加し、各グループには市の若手職員１人がついてアドバイス役を務めた。

グループワークでは、2019年ラグビーワールドカップを契機とした観光振興策などを４回にわたって調査・研究し、課題解決に向けた提案をまとめ発表した。
［開催期間：8/7～8/22のうち４日間、表彰式：10/9］

最終日には地元の高校生６人も参加し、学生からの提案を聴講しました。

提案を発表する学生＝袋井市の静岡理工科大

静岡理工科大生

袋井の観光振興提言

W杯や五輪パラ見据え

袋井市の静岡理工科大の学生が市内の振興策を考える「地域学講座」の提案発表が22日、同大で開かれた。地元開催の2019年ラグビーワールドカップ（W杯）や20年東京五輪・パラリンピックを見越した観光振興を提言した。

市と同大による同講座は8年度から5年目。袋井への観光客誘致をテーマに1、2年生28人が6グループに分かれ、この日までにフィールドワークなどに取り組んだ。市内の知度不足や、宿泊施設の少なさも課題に挙がった。その上で学生ごみ箱不足を懸念するグループは、独自のごみ箱の開発を提案。二つの投入口でW杯コバなど全国に誇れる観光施設はある。PR記を用いることで話題性やごみの回収率の向上につながると強調し、ポイ捨ての解消にもつながると訴えた。

市内の観光設の認訪を念頭にした情報アプリの開発やSNSの活用の重要性を唱えた。

1年の池本拓生さん（20）は「遠州三山やエ要があるのでは」と分析した。

（袋井支局・伊藤龍太）

	タイトル	概　要
市長賞	次世代のふくろいガイドブック	観光パンフレットや交通機関の運行時間など、観光客向けの情報を集約するアプリ開発などの提案。
学長賞	テクノロジーを活かした観光	理工科大学が作成したＡＲ「ラガーマー」を改良し、市内呉服店と協力を得て、着物や浴衣などのデジタル試着機能を登載し、和服の販売増と観光誘客を図る提案。

平成30年８月23日（木）静岡新聞［朝刊］